

平成31年(令和元年)度 佐賀市立北川副小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標	きたえよう 心と体	かわそう あいさつ	そえよう えがお
えがお かがやく 子どもを育てる 「チーム北川副」 ～自身と意欲、思いやりのある、たくましい子どもを育てたい～	知・徳・体がバランスよく育ち、笑顔輝く子どもの育成 (き)もちのよい挨拶をしよう (た)くさん本を読もう (か)らだも心も大切にしよう (わ)かるまで勉強をがんばろう (そう)じ・整理整とんに取り組もう (え)がおで過ごせる学校にしよう			

3 目標・評価				
◎本校の特色や学校運営に関わる評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○コミュニティ・スクール 【五者会議】	・学校運営協議会の充実	・学校運営協議会の創意を生かした教育活動を積極的に行う。 ・教育・学習の縦軸と横軸のつながりを強化し、城南豊夢学園の活動への参画を促進する。 ・佐賀県内の先進地(中学校区型CS)としての役割を自覚し、コミュニティ・スクールのよさを広める。	・特色ある活動の維持・発展を図る。 学び応援団との連携:スキルタイム支援、漢字検定等 育ち応援団との連携:栽培体験活動等 心豊か応援団との連携:お花をかざろう、読み聞かせ、ドレミでどんどん等 ・城南豊夢学園において年3回以上の共同行事を行い、連携を進める。 ・コミュニティ・スクール視察や問い合わせ等に対し、要望に応じてきめ細やかに対応する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進 【五者会議】	・働きやすい職場環境づくり ・児童と向き合う時間の確保	・定時退勤日を設定し、75%以上の達成を目指す。 ・前年度と比較し、時間外勤務の割合を20%以上削減する。 ・児童と向き合う時間が増えたと感じる担任の割合を75%以上にする。 ・担任が子どもとかかわる時間が増えたと感じる保護者の割合を75%以上にする。	・定時退勤日の通知を電子黒板や出勤簿横の掲示板に示し、意識して取り組めるようにする。 ・日々の出退勤時間を確認し、時間外勤務が多い教職員に個別に指導・支援を行う。 ・過時程を見直し、火・水曜日以外は放課後の会議等を入れないようにして、学年や学級で自由に使える時間を確保する。 ・会議や研修を精選し、できるだけ時間短縮や回数削減を行う。
教育活動	○ユニバーサルデザイン 【学び・暮らし部】	・主体的・対話的な学びの推進 ・学習しやすい環境づくり ・・・「きれいな学校にしよう」	・学級が「とても発表しやすい」「発表しやすい」と答える児童を75%以上にする。 ・先生の授業が発表したくなる授業かどうかで、「とても思う」「思う」と答える児童を75%以上にする。 ・学習環境が整理・整頓されて使いやすくなったと感じる教職員の割合を75%以上にする。	・全授業で特別支援の視点を取り入れた、「学習環境のユニバーサルデザイン化」「授業のユニバーサルデザイン化」を図る。 ・学校運営協議会・PTAと連携し、「教育のユニバーサルデザイン化」に関する集い・講演会を行う(保護者・地域住民対象)。 ・子どもたちや教職員が使いやすい環境をつくるため、学校内の整理・整頓を徹底する。
①「かしこい子」の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上 【学び・育ち部】	・主体的な学習習慣の育成 ・・・「わかるまで勉強をがんばろう」	・「めざせ！1分間わくわくスピーチ」を年間を通じて取り組み、「よく進んで話している」「進んで話している」と答える児童を75%以上にする。 ・授業中「よく進んで活動している」「進んで活動している」と答える児童を75%以上にする。	・PTA・学校運営協議会と連携し、1分間わくわくスピーチの推進や家庭学習パワーアップ週間に取り組む。 ・授業公開を核として、考えを深め互いを高め合う授業づくりについて学び合い、教師の指導力向上を図る。 ・校内研究を活性化し、全職員が「話したくなる授業」づくりのための工夫に日ごろから取り組むようにする。
教育活動	○図書館教育 【育ち・学び部】	・読書活動の推進 ・・・「たくさん本を読もう」	・1年間の読書量について1人当たり100冊以上を目指す。 ・各学年の推薦図書40選を全児童が読破できるようにする。 ・家庭と連携し週3日以上「家読」を進める。	・読書のがんばりを励ましたり称賛したりする手だてを工夫(図書館便り等での紹介や表彰など)する。 ・推薦図書40選の内容を見直し、児童が興味を持って意欲的に取り組めるようにする。 ・「家読」について図書館便りで紹介したり、読書の効果について学校便りに載せたりする。
②「やさしい子」「ただし子」の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育 【心豊か・育ち部】	・道徳教育の充実 ・思いやりのある言葉遣い ・・・「感謝の気持ちをもとう」	・友達ににこにこ言葉を「よくつかっている」「つかっている」と答える児童を90%以上にする。 ・ほかほかアンケートやQ-Uテスト等で子供理解に努める。	・年度初めに、言葉遣いについての指導をする。 ・フリー参観デー(ふれあい道徳の実施)で、家庭・地域と一体になった実践をする。 ・PTAと連携し、心の教育講演会を実施する。 ・Q-Uテストや生活アンケートの結果を学級経営、学年経営に生かす。
教育活動	●いじめの問題への対応 【心豊か・暮らし部】	・生徒指導、人権・同和教育の推進	・友達と楽しく学校生活を送っているかどうかで、「とてもおもう」「おもう」と答える児童を95%以上とする。	・人権教室を月1回行い(全校で5回、学年・学級単位で7回)、事後のアンケートで児童理解を深める。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。 ・「あのねポスト」を活用し、児童理解を深める。 ・教育相談週間を設け、担任と児童が個別に話し合えるようにする。
教育活動	○北川副流あいさつ 【暮らし・心豊か部】	・生活習慣、礼儀の定着 ・・・「笑顔で挨拶しよう」	・時と場に応じて「立ち止まり、目を見て、おじぎをする」あいさつが「よくしている」「している」と自己評価する児童を80%以上とする。	・生活のめあてを話す全校集会など機会あるごとに北川副流あいさつについて取り上げ、日ごろから児童が意識するようにする。 ・あいさつ名人を放送し、「にこにこキリリ掲示板」に掲示する。 ・いつでも「北川副流あいさつ」ができている児童の名前札に「あいさつマスター」のシールを貼らせ、意欲を高める。 ・教師自ら、北川副流あいさつをし、手本を示す。
③「たくましい子」の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり 【健やか部】	・外遊びの奨励 ・・・「外で元気に遊ぼう」 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化	・外遊びやスポーツなどで30分以上運動した児童を90%以上にする。 ・「早寝・早起き」の達成率75%、朝食の喫食率90%以上を目指す。	・毎日の外遊びを奨励するとともに、週に1回は担任と一緒に「みんなで遊ぶ日」を設定する。 ・昼休みに、スポーツ委員会主催のスポーツレクを行う。 ・生活習慣を身につけさせるため、家庭と連携し、学期に1週間ずつ「生活習慣チェック」を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目